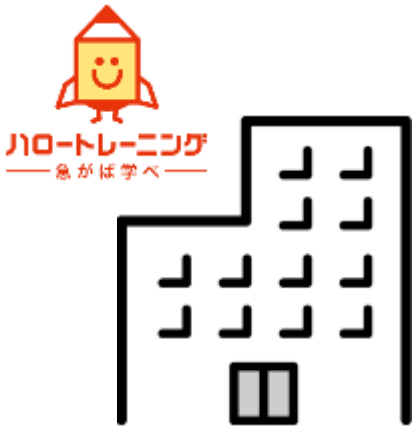
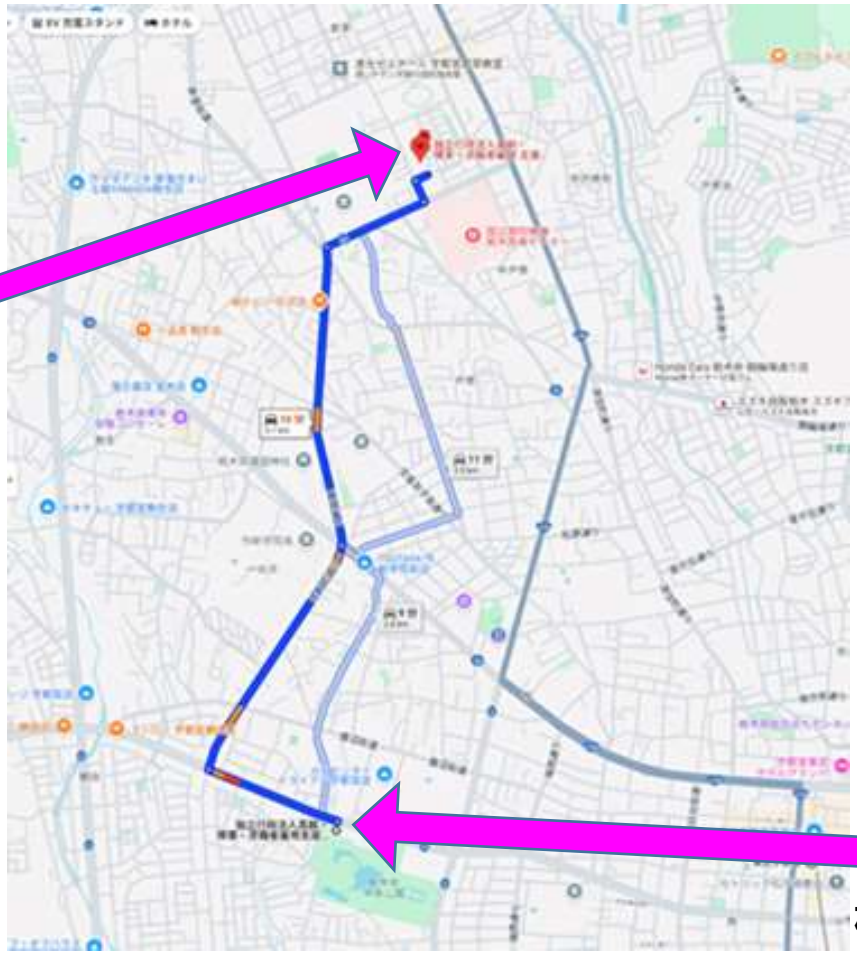
ポリテクセンターと地域障害者職業センターが連携した障害のある訓練生に対する支援事例

○ 近藤 正規（栃木障害者職業センター　主任障害者職業カウンセラー）
正木 敦也（ポリテクセンター栃木　職業能力開発指導員）

ポリテクセンター栃木と栃木障害者職業センターの所在地



ポリテクセンター栃木
（栃木支部）



栃木障害者職業センター

- ３キロ程度の位置関係
- 令和8年3月に、栃木障害者職業センターはポリテクセンター栃木（栃木支部）の敷地内に移転予定

Aさんの概要

Aさん

・40代・男性
・難病により上下肢機能に制限があるため身体障害者手帳を所持
・移動時、訓練受講時は車いすを利用
・ポリテク栃木で居住系住宅CADデザイン科を受講

↓

建築CAD検定2級合格
（CAD技能も申し分ないスキル）

訓練の受講状況、習得状況は良好

だが…

「訓練終了後の就職活動は、自分の障害をどの程度伝えるべきなのか？」

自身の障害特性を企業に伝えるかどうか悩んでいた。

チーム支援の土台づくり

ポリテクセンターでAさんと相談
障害者職業センターについて情報提供

指導員→Aさん
障害者職業センターで就職活動の進め方について相談ができることを情報提供。
Aさんは「まず説明を聞いたうえで相談したい」

つなぐ

説明を聞き評価を希望

カウンセラー→「職業評価」はAさん自身の障害特性と、就職に際して必要な配慮事項について整理するためのものであることを説明。
（就職の可否判定×などの検査等ではない）

障害者職業センター来所
（Aさんと指導員）
まず説明を一緒に聞く

Aさん、指導員の先生に訓練状況、通所状況等聞き取り
・移動…車いすで自力移動、自動車の運転、乗り降りも可。
しかし、スロープ、多目的トイレは必須。
・片道1時間、車を独力で運転し1日も遅刻欠席なく通所。等

職業評価の実施
聞き取りや検査（書字・PC作業等）によるアセスメント

Aさんの同意を得て、以下のメンバーと職業評価結果を共有し、今後の支援方針をチームで検討した
…Aさん、ポリテクセンター（指導員）、障害者職業センター（Co）、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター

職業リハビリテーション計画の策定（今後の就職活動・支援方針の検討）

☀Aさんの就職支援～「チームで支援をする土台づくり」につながった

チーム支援の概要

チームとして就職支援⇒就職につながる

今回の支援ケースでは
職業訓練指導員も
チームの一員として参加

ポリテクセンター 職業訓練指導員

＊求人内容検討へのマッチング助言（CADスキル、使用するソフトウェアと訓練内容との適合性助言等）
＊事業主にAさんの技能面（CADスキル）について説明

障害者職業センター カウンセラー

＊Aさんの特性や必要な配慮事項を整理し書面化する相談・支援
＊事業主支援（雇い入れ検討事業所を訪問、職場環境、業務内容、使用ソフト等確認、障害特性の補足説明）

ハローワーク

＊求人紹介（CADオペレーター）
＊障害者就職面接会の情報提供
＊雇い入れ検討事業所の求人化・紹介

地域の就労支援機関

＊体験実習先の情報提供（CADオペレーターとして障害者雇用を検討している事業所情報）
＊事業所見学（Aさん、Coと同行）

JEED 求人応募への相談、面接同行、事業主支援は…**障害特性**を踏まえて＋**技能面**を踏まえて**協同で支援**

連携のメリット

ポリテクセンター

★Aさんに寄り添う丁寧な相談、合意形成→つなぎ
★技能付与＋事業所への専門的助言

連携のメリット

職業センター

★Aさんが安心して長く働き続けられるような就職への専門的助言
（Aさん＆事業所に）
★チーム支援
「つなぐ」支援

Aさんにとってよかったことは？

★習得した技能を活かし、希望する職務・理解や配慮の得られる環境で就職

障害特性・あるとよい配慮の助言　＋　技能面の応援（技能付与・説得力）
Aさんや事業所の不安をとりのぞき、雇用にチャレンジする後押しができる

連携のポイント①

利用者本位の丁寧な合意形成

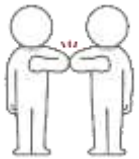
指導員から丁寧にAさんの意思を確認した

★ポリテク栃木で指導員が、Aさんが就職活動の悩みを抱えていることを把握

★Aさんの「まずは説明を聞いた上で相談したい」という明確な意思を確認した上で栃木センターのカウンセラーと情報共有

↓

Aさんは安心して栃木センターを利用することができた



連携のポイント②

ポリテク栃木による支援への継続的な関与

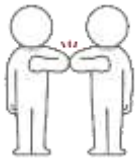
指導員が支援連携の中で「専門知識をどのように活かせるか」という視点で関わりを継続した

★Aさんの栃木センター来所に同行しただけでなく、職業評価の振り返りや就職面接会にも同席

↓

指導員がAさんの障害特性についてより理解を深めた

面接会に指導員が同席することで、Aさんの技能面の説得力に厚みが増した



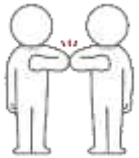
連携のポイント③

「顔の見える関係」の重要性

指導員とカウンセラーが、互いに「どのような専門性を持つ人か」を認識し、一定の信頼関係を構築できていた

★栃木センターのカウンセラーは研修等でポリテク栃木の施設を利用することがあった

★指導員とカウンセラーが顔を合わせる機会にお互いの業務について言葉を交わすことがあった

↓

Aさんのケースでも互いに具体的な連携イメージを持って支援を開始できた